

リンゴとナシの相互交雑和合性

若菜, 章
九州大学農学部

花田, 信章
九州大学農学部

中川, 幸夫
九州大学農学部

鳥飼, 芳秀
九州大学農学部

<https://doi.org/10.15017/12611>

出版情報 : 九州大学農学部農場研究資料. 7, pp.47-48, 1984-10. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :

リンゴとナシの相互交雑和合性

若菜 章, 花田 信章, 中川 幸夫, 鳥飼 芳秀

1 目 的

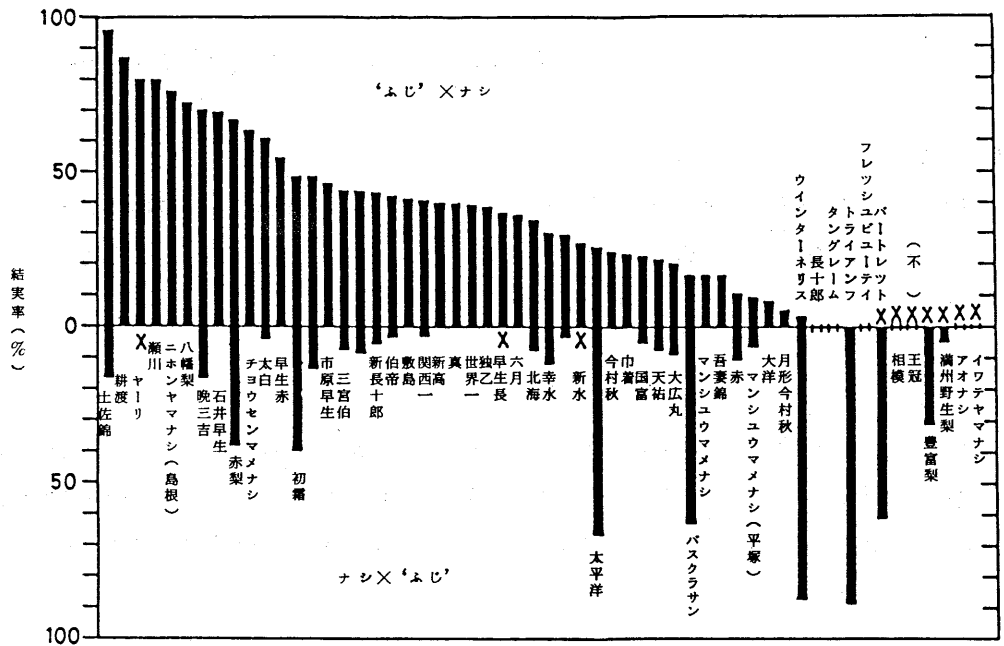
リンゴ属とナシ属は隣接した属であり、形態的、細胞学的に共通の特色が多く、属間の交雑も可能である。しかし属間雑種の育成は難しく、その利用までは至っていない。そこで属間雑種獲得のための基礎知見とするために、多数の品種を供試し、交配試験を行った。

2 方 法

リンゴ‘ふじ’と中国梨、日本梨、西洋梨及び野生梨の相互交配を行った。リンゴへの授粉にはナシの貯蔵花粉を使用し、ナシへの授粉にはトンネルハウス内で開花促進をしたリンゴの開花の花粉を使用した。授粉は1花そう当り3蕾を供試した。交配の結果は開花後20日前後の花たぐの肥大と種子の生長により判断した。

3 結 果

リンゴ‘ふじ’とナシ属植物の交雑はいくらかの組合せで不可能であったが、他の組合せにおいてはすべて結実し、雑種種子を得た。しかし、結実率は組合せにより大きな差が認められ、100%近い結実を示す組合せから0%に近い組合せまでであった(第1図)。ナシ属植物と‘ふじ’の組合せでは結実率が著しく劣ったが、一部組合せでは高い結実率を示した(第1図)。この高い結実率は西洋梨に特に高く、完全種子がないことから単為結果したものと思われる。この原因として、ハウス内の高温によるリンゴ花粉稔性の低下が考えられ本組合せは追試する予定である。今回の結果と予備試験として行った‘ゴールデンデリシャス’×ナシの結果から、リンゴ属とナシ属の間には同一の不和合遺伝子を持つことも考えられ、さらにリンゴ品種を加え詳細に検討したい。



第1図 リンゴ‘ふじ’とナシの相互交配による結実率の種類による相違

×; 未交配